

2020 年 1 月 7 日 C グループ 浜田

山家悠紀夫『景気とは何だろうか』岩波書店 2005 年

終章

○問題提起

・「政府の経済見通し」には「余りに暮らしに関連した事項が少な過ぎる、という欠点がある。」(p202 L14) とあるが、なぜ政府の経済見通しに暮らしに関する事項が少ないのか。

○選んだ理由

・政府は国民の暮らしを良くする役割を担っているのに現実を知ることのできる指標をあまり取り入れていないことを疑問に思ったから。

A グループ

・暮らしの事項が少ない理由は、暮らしに関する事項に対する定義化がされていないから。アメリカでは暮らしに関する事項の定義がいくつかあるので、政府目標が立て易い。

B グループ

・今の「経済見通し」はマクロ的視点のため国民向けではないことや、暮らしは政府の意思ではどうにもならないと考えることから、暮らしに関する事項が少なくなっている。

C グループ+D グループ

・暮らしに関係する事項は人の動きを予測するのに近いと、見通しの立てやすい景気に関する指標を重んじてしまっているから。暮らしと景気を別々に考えているなら暮らしの指標も政府は出しているはず。政府は暮らしと景気を別々に考えていない。